

地域密着で産前から子育てまでケア

⑬⑤ 小川クリニック (神奈川県横浜市)



病院と同等の最新機器・技術で診療する小川クリニック

「信頼の医療との出会い」をテーマに掲げ、3代、100年にわたり地域の周産期医療に貢献してきた。特徴はその歴史だけでなく、その診療体制だ。4D(立体動画)エコーなど最新の医療機器を10年以上前からいち早く備え、産前から子育てまでトータルな医療を提供している。

同クリニックは4階建て。19床の病床はほとんどが個室だ。駐車場の収容台数は約40台を確保しているが、「父親学級」開催のときは満車状態になるという。印象的なのは受付前のロビー。解放感あふれる空間に、ピンク色を基調としたソファが並

ぶ。おなかの大きな患者に配慮し、ゆったりとしたつくりになっているのが特徴だ。

ハード面だけではなく、患者に大きな印象を残す受付の対応にも好感度を徹底している。いくら良い診療をしても、最初と最後に接する事務員の接客態度次第では台無しになるので、お産にしても小児科にしても、今後の生活につながる、より前向きな気持ちを持ってもらえるような対応を意識している。

小川博康院長の大学勤務医時代の専門は、胎児診断・胎児治療。「胎児に対する胎内交換輸血」など世界で一例しか成功していない最先端の手術



優しい色調のロビー



診察椅子がそのままベッドになる産科の診察室



玩具もたくさんそろえたキッズルーム。小児科も充実している



ベッドが広い分娩室



自宅と同じような雰囲気迎える入院個室



一流シェフが本格的に調理する食事。患者への高額の追加料金は無い。

を行ってきた小川院長だけに、設備に対しては強いこだわりがあり、最新の機器を備えている。「病院と同じレベルでの診療」を目指しているという。

特徴は食事にもある。食育という育児のイメージがあるが、ここでは産前から行う。外部委託ではなく、ミシュランガイド常連の星クラスのレストランにいたシェフを招聘、管理栄養士や調理師なども自前のスタッフをそろえ、食材を吟味したフレンチ、和食などを提供している。しかし、いわゆる“セレブ産科”といわれる病院のように高額な入院費を請求することはない。

小児科医による対応にも熱心に取り組む。育児に関する相談、身体・機能・知能の発達チェック。特別な病気が疑われる場合も大きな病院ではなく専門医などへ紹介している。薬剤師や栄養士による相談も受け付けている。同クリニックで生まれた子供は小学校卒業まで面倒を見る徹底ぶりだ。

妊婦や家族のアクセスの良さを考え、JR戸塚駅の東口と西口に二つの附属助産院を設け、「健診は助産院で、お産は本院で」という新しいスタイルを提案。助産院は母乳指導や子育ての悩み相談など産後ケアセンターとしての役割も担っている。